



国体の記憶 16

このコーナーに登場してくれる人を募集します。
くわしくは広報課（☎20・1503）へ。

成田で“ビッグスマイル”を

今秋、国体閉幕後に開催される全国障害者スポーツ大会「ゆめ半島千葉大会」。障がいを抱えるトップアスリートたちがしのぎを削る。もう一つの国体に、ソフトボール（知的障がい者競技）千葉県選抜の監督として挑む。

大学卒業後、児童指導員として知的障がい児施設・不二学園（大清水）へ。室内に閉じこもりがちだった子どもたちを目にし、「もっと外で遊ぼう」と始めたのが、ソフトボールだった。

練習は、毎日昼休みの1時間ほど。最初はボールを怖がり、三塁に走ってしまったりと子どもたちは競技になじめなかったが、「ソフトボールをやりたい。うまくになりたい」という思いは日増しに強く感じられた。「時間前でも自然とみんながグラウンドに。雨の日も風の日もです」。子どもたちの純粋さを真正面から受け止め、一緒に泥だらけになって練習。職場・先輩の後押しもあり、チームは県内有数の実力をつけた。その手腕が買われ、県選抜チームのコーチ・監督に。全国トップレベルの選手が見せるひたむきさ、それを支える指導者の姿から「多



障がい者スポーツ先進国の米国で（平成2年スペシャルオリンピックス）

くのことを教えられた」と振り返る。職場の異動で、しばらくソフトボールから離れていたが、4年前に再び県選抜の監督に。選手と二人三脚でチームを強化し、全国制覇へあと一歩のところまで来た。冬の合同練習は2週間に一度しかできないが、練習メニューを指示したり相談に乗ったりと、メールを駆使して、選手とのコミュニケーションを絶やさない。

「彼らは皆、すごいエンパワーメント（本来の力）を持っている。それを引き出す助けになるのが自分の役目。頑張る選手たちの姿を一人でも多くの人に見てほしいですね」。昨年関東大会決勝で流した悔し涙が、成田で「ビッグスマイル」（最高の笑顔）に変わるまで、あとわずかだ。

編集後記

今回の特集“小規模多機能型居宅介護”。私も、祖母や両親の介護経験がありますが、住み慣れた地域で顔見知りの職員・利用者に囲まれて介護を受けられる、こういった制度が上手く利用されて、老後の負担が少ない社会が実現すればいいな...と思いました。高齢者人口が増加していく中、求められる介護サービスのあり方は今後多様化していくのでしょうか。自分自身の将来も含め、介護に頼ることなく、“我が家＝終の棲家”とすることができたら、それに越したことはないんですけどね。



成田市役所本庁舎（行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署）はISO14001の認証登録を受けています。